

2007年能登半島地震の合同余震観測

Aftershock observation of the Noto Hanto Earthquake in 2007 by temporary seismic observations

酒井 慎一 [1]; 2007年能登半島地震合同余震観測グループ 飯高 隆 [2]

Shin'ichi Sakai[1]; Iidaka Takashi Group for the aftershock observations of the 2007 Noto Hanto Earthquake[2]

[1] 東大地震研; [2] -

[1] E.R.I., Univ. of Tokyo; [2] -

2007年3月25日に能登半島でMjma6.9の地震が発生した。全国の大学や研究機関がそれぞれ観測機材を持ち寄り、その日の夜には臨時観測が始まり、2007年能登半島地震合同余震観測グループが立ち上げられた。参加機関は、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所である。これらの観測で得られたデータを用いて詳細な震源分布を求める。